

第4回高等研究院レクチャーを開催

第4回高等研究院レクチャーが、5月28日(金)、医学部附属病院中央診療棟3階講堂において開催されました。

今回は、「生命機能から病気を解き明かす」をテーマに、精神・神経疾患の解明や生命機能の不思議さとその応用についての講演が行われました。

最初に、近藤高等研究院長のあいさつがあり、引き続き



会場の様子

グローバル COE プログラム拠点「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」のリーダーである祖父江医学系研究科長が「GCOE - 機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点 - について」と題して、神経・精神疾患と悪性腫瘍の病態に共通の分子機構が深く関わることに着目する同拠点の狙いや、研究成果について分かりやすく紹介しました。

次に、Rho ファミリーという細胞間の連絡役の研究で世界をリードする貝淵弘三同研究科教授が、「細胞内シグナル伝達から種々の疾患を考える」と題し、細胞内外のシグナル伝達系の異常によって引き起こされる疾患やその治療に関する最新の研究成果を紹介しました。

続いて、生命を分子機械として解き明かす極めて独創的な研究で知られる柳田敏雄大阪大学大学院生命機能研究科特任教授が「ノイズを使う生命機能」と題し、厳密制御不能な複雑生体システムを省エネでロバストに制御する仕組み、またその人工機械への応用可能性について面白く講演しました。

講演後には活発な質疑応答が行われ、本学教職員、学生や一般の方々など約250名が参加し、盛況となりました。